

校内の教育相談体制構築へのモデル（1年間の取組）

4月 教育相談に関する役割の確認

管理職

- 教育相談に関する分掌の任命
- 教育相談に関する方針の提示と説明
- 教育相談委員会の運営に対する指導・助言
- 生徒情報の把握 ●生徒理解への指導・助言

教育相談委員会

生活指導担当主幹

- 教育相談に関する年間計画の進行管理
- 他の分掌との連絡・調整

教育相談担当者

- 教育相談に関する年間計画の立案・実施
- 生徒や保護者の相談
- 学級担任、教科担当に対する援助
- 関係機関との連携 ●校内委員会の運営
- 相談室の管理

養護教諭

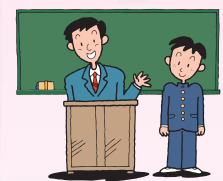
- 生徒や保護者への健康相談活動 ●問題点の発見
- 学級担任、教科担当に対する援助 ●関係機関の紹介と連絡・調整

学級担任・教科担当

- 生徒や保護者からの相談 ●心のサインへの気付き
- 教育相談的な配慮を活かした授業の実践 ●日常的な生徒の情報交換
- HR活動をと通した生徒観察

2月
次年度計画の作成

1月
生徒の情報交換会



11月 教育相談研修会

運営：教育相談担当者が中心となって計画する。

内容：生徒の情報交換会や事例検討会で出されたテーマにする。

テーマ例：思春期の心と行動の特徴、思春期に多い精神疾患（統合失調症、うつ病など）の理解と教師の対応、発達障害の行動特徴と基本的な対応、保護者への対応、医療や福祉等の関係機関との連携など。

教育相談活動の充実のための視点

個別的、個人的な相談活動から組織的な相談活動への転換

学校全体の組織的な活動を目指して、校内担当者を中心にした教員間の情報交換を行う。

教師の悩み

- 学級担任が一人で悩んでいる。
- 養護教諭が抱えている。
- 生徒の様子が分からない。
- 教師のストレスが大きい。
- 誰に相談したらよいか分からない。

組織化

教育相談の充実した学校では

- 校内で役割を分担して対応できる。
- 生徒の情報を共有化でき、指導方針が統一できる。
- 相談内容の見極めがしやすく、心理の専門家につなげやすい。
- 教師に気持ちの余裕ができる。

5月 生徒の情報交換会

参加者：校内の教職員

運営：教育相談担当者がコーディネーター役

内容：前年度の指導の経過を基に、今年度の教員間で指導上の情報共有が必要である生徒を中心に情報交換を行う。

6月 事例検討会<学年で実施>

参加者：教育相談委員会メンバー、担任、教科担当、部活動顧問等

目的：生徒の情報交換会を基に配慮を要する生徒について、様々な立場の教職員から情報を収集して背景を探り、課題を明確にして支援策を見いだす。

検討する例：授業中に短時間で集中が途切れてしまう生徒、友達関係を築きにくい生徒、周囲とトラブルを起こしがちな生徒、教室から抜け出してしまう生徒など。

夏季
研修会等への参加

9月
生徒の情報交換会

10月 心理の専門家を招いた事例検討会<関係者で実施>

参加者：教育相談委員会メンバー、担任、教科担当、部活動顧問等、心理専門家

目的：対象生徒の課題の明確化と具体的な支援策を検討する際に、心理の専門家を招いて専門的な立場からの助言を得る。

検討する例：リストカットを繰り返す生徒、頻りに保健室を利用し言動が不安定な生徒、周囲とのトラブルが頻発し暴言がエスカレートしている生徒など。

生徒の個別面談のポイント

- 面談の目的をはっきり告げる。
- 緊急時以外は事前に予告する。
- 時間を決めて行う。
- 生徒の話を最後まで聴く。
- 面談により周囲との人間関係を把握する。
- 面談記録を取り、継続的なかわりをする。

保護者面談のポイント

- 保護者が来校した労をねぎらう。
- 面談の目的をはっきり告げる。
- 生徒の問題を話すときは、事実を具体的に伝える。
- 保護者の不安な気持ちを受け止める。
- 保護者の話を最後まで聴く。
- 安易な言動をつつしみ、保護者を批判したり非難したりしない。
- 解決のために、共に考えていく姿勢をもつ。

事例検討会の進行のポイント

- 時間を決めて進行する。（1事例につき30分から45分程度）
- 資料は簡潔に作成する。既存の資料があれば活用し、作成の負担を軽減する。
- 事例提出者（担任等）を支える立場で発言し、これまでの対応の批判をしない。
- 支援策は、生徒、保護者及び教職員にとってスモールステップで実行できるものを提案する。

関係機関の例

- 教育相談センター
- 少年センター
- 児童相談所
- 福祉事務所
- 精神保健福祉センター
- 医療機関
- 子ども家庭支援センター
- 保健所